

# 石狩湾系ニシンの漁況予報

北海道立総合研究機構 中央・稚内水産試験場  
令和5年12月4日

石狩湾沿岸における今漁期（令和6年1～3月）の漁況は次のようになる見通しです。

- 漁期序盤（1月）：4歳（2019年級）以上の大型・高齢主体。来遊量は「増加」
  - 漁期中盤（2月）：上記に加え、3歳（2020年級）も来遊。来遊量は「横ばい」
  - 漁期終盤（3月）：2歳（2021年級）も来遊し、小型中心に。来遊量は「減少」
- \* 序盤の来遊は資源状態以外の要因にも左右されます  
\* 近年、漁期終盤にも大型個体の来遊が多いですが、今シーズンも継続するかは不明です

本年10月に留萌沖で実施した試験調査船「北洋丸」によるトロール調査では、1歳魚（2022年級）もわずかに採集されましたが、大半は2歳（2021年級）以上で占められていました。2歳魚が最も多く（60%）、次いで4歳魚（2019年級、13%）、6+歳魚（～2017年級、12%）、3歳魚（2020年級、8%）、5歳魚（2018年級、6%）の順で多く採集されました。

この調査結果が今漁期に来遊するニシンの年齢組成を反映していると仮定すると、今漁期の来遊の中心は2～6歳といえます。2023年度実施資源評価の解析では、今年度の資源量は前年度比で、3歳は「減少」（0.8倍程度）、4歳は「増加」（3.6倍程度）、5歳と6+歳は「減少」（0.5倍程度）と予測されています。2歳魚（2021年級）は、若齢のため資源解析に基づく予測が困難なので、トロール調査での採集状況を参考にしました。今年度の全調査点（4点）における2歳の平均採集尾数は昨年度より「減少」しました。

石狩湾系ニシンの来遊は、例年、漁期前半には高齢・大型魚が来遊し、漁期が進むにつれ、小型魚も沿岸へ来遊し、終盤に向けて小型主体の漁獲物に変わってきます。この特徴から考えると、漁期序盤（1月）は4～6歳魚中心、中盤（2月）は3～6+歳魚中心、そして終盤（3月）は2～3歳魚が来遊の主体となると思われます。このような来遊パターンを想定すると、今漁期の来遊量は昨漁期比で、序盤では「増加」、中盤では「横ばい」、終盤では「減少」と見込まれます。

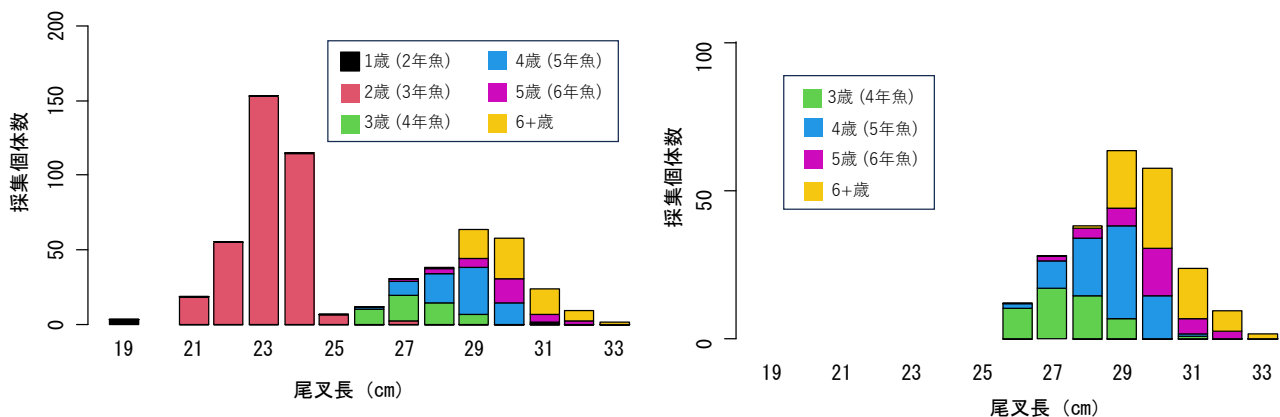


図 本年10月に留萌沖のトロール調査（北洋丸実施）で採集されたニシンの年齢別尾叉長組成（各調査点（4点）での曳網距離1,000mあたり採集尾数の平均、右図は2歳を除いたもの）